



前掲大岡博が多数参加した昨年夏のベルギーツアーより。前掲大岡博は飛行機運賃がタダです

イシや入道、食事などの生活介助が必要のない身障者の場合、既述者の3割増しのツアー費用で旅が実現している。ふだんから生活介助が必要な人の場合は5割増しから倍割になるが、仮に倍額を払って2人のボランティアが付くと、ボランティアのほうはそれぞれ半額の費用で旅ができる。

視覚障害を持つ女性が今年5月の連休にタイへの旅行を計画。本人の希望により旅費の全額負担を条件にボランティアを募集したところ、20名近くの申し込みがあり、選挙の末、旅費を払って現地のガイドもできそうな女性をボランティアに選んだ。条件が良かったため、より希望に沿った相手を見つけたことができたが、こうした個人旅行では周りのサポートが期待できず、ボランティアの責任も大きくなるため、旅費の負担割合は少し高めに設定されることが多いという。

旅は気分転換にぴったりだ。あきらめていた海外旅行をトラベルボランティアにより実現させた視覚障害の後進生を抱える男性からは「それまでの精神的な苦しみ込みが解消され、今も旅の余韻を楽しんでいる」という手紙がJTVNに届いた。ツアーでは障害を持っていない人と同じように楽しんだり、他の障害を抱える人を見て自分も頑張らなくてはと勇気づけられることもある。一方、ボランティア側も

得るところが多いようだ。「例えば視覚障害者に対しては、目の前の光景などを客観的な言葉に置き換えて説明するのが、これがなかなか難しいんですよ。しかし、一緒になつてとりあえず何でも触ってみたり、においを嗅いでみたりしているうちに、ああ、こういう旅の楽しさもあるんだなと気づくんです」と自らもトラベルボランティアを務める五島さんは話す。

介助経験のないボランティア、初対面の人に介助を頼むのをつい躊躇してしまう身障者。そうした不安を解消する手助けとして、JTVNでは介助する人用とされる人用にマニアルを用意しているが、旅には予想外の出来事付きもの。帰国後はそれぞれアンケートに答えてもらい、会員の体験を再びマニアルに反映させるなどして、日々システムを充実させている。

「バリアフリー」旅行を支える 旅行会社のサポータークラブ

近畿日本ツーリスト(株)には「トラベルサポータークラブ」というものがある。同社クラブツーリズムバリアフリー旅行センター(東京都葛飾区)では、約6年前から身障者や高齢者を対象とした国内・海外バリアフリーツアーを企画しており、トラベルサポーターはその参加者の要請に応じてツアーに同行、介助をしながら、一緒に旅を楽しむ。サポーターのツアー費用は、介助の内容に応じて「パートナー」と呼



ベルギーの北海に面した町にて海と戯れる。おそどさんが企画するツアーには体験する要素が多い

ばれる介助を受ける側が40〜80パーセントを負担する。

トラベルサポータークラブは1年ごとの登録更新制で、年会費は1000円。サポーター募集は同社の雑誌「旅の友」やホームページ上で随時おこなっている。会員になるにはやはり資格などは必要ないが、定期的に開催される勉強会や交流会で、車いすの押し方など介助の方法を学んだり、相互理解を深めることが義務づけられている。そのため、新宿のセンターに通える人がサポーターの条件となる。今年度はこの夏の時点で約70名ほどが登録。40代50代の女性を中心で、介護などの経験のある人が多いという。

同社のバリアフリーツアーは、行き先は通常のツアーと変わりないが、現地の状況を詳しく調査し、例えば、訪問先に段差はないか、車いす用のト

イレはあるか、ホテルのバリアフリー対策はどうなっているかなど。また旅のスケジュールは、通常は1日で見学と回るところを2日間あてるなどゆとりや余裕をもって組まれ、移動には基本的にリフト付きバスを使用。海外旅行の出入国カードの無料作成や車いすの無料レンタルなどのサービスもあり、旅行者の安心度は高い。しかし、「こうしたツアーの需要はまだ少ないため、料金はどうしても高めとなる。」

「トラベルサポーターの旅費が割引かれる」というのも、実質的には一般のツアーと同程度の旅行代金がかかってしまっていることが多いです。金銭的なメリットはあまりないのですが、旅好きな方が多く、精神的な充実で参加したいという人が多いと思います。」(クラブツーリズム・柳川智美さん)

クラブに登録していても、実際にトラベルサポーターとしてツアーに参加し、そのある人は、現在のところ2〜3割程度で、介助の要望に対し、同行できるサポーターが見つからない場合もある。しかし、実際にツアーに参加したサポーターからは「パートナーから身寄せられたものが大きかった」「一緒に感動が味わえてよかった」「再びまた行きたい」という声が多く聞かれるという。



同じくベルギーツアー。ブルージュのマルクト広場で建物模型に触る一行

介助される人とする人の 会員制ネットワーク

JTVNはボランティアを求め人もボランティアも登録制で、まずは運営費6000円と自己PR文を提出する必要がある。登録制としているのは、郵送やEメールで送られる会費などを通じて会の運営をよく理解し互いの信頼を深めてもらうためで、メンバー



アフリカツアーより。ケニアの自然公園でマサイ族の男性と記念撮影

「ボランティアからの問い合わせも多いが、福祉ヘルパーなどの資格や経験がなくとも大

は身障者や高齢者の「旅に出たい」という思いに応えたいと、トラベルデザイナーのおそどまきさんが昨年1月に立ち上げた相互介助ボランティア組織「旅のガイドブック」などの執筆でも知られるおそどまきさんは、1997年から身障者も気軽に参加できる旅企画をし、これまでに国内外合わせて30本以上のツアーを実施してきた。その経験を基に開設されたJTVNは、身障者がおそどまき個人旅行を希望する場合には同行ボランティアを確保することができる仕組みだ。

JTVNはボランティアを求め人もボランティアも登録制で、まずは運営費6000円と自己PR文を提出する必要がある。登録制としているのは、郵送やEメールで送られる会費などを通じて会の運営をよく理解し互いの信頼を深めてもらうためで、メンバー



おそどまきさんが企画した今年2月のイタリアツアーより。ベネチア観光ではリフト付き船艇を使用

「介助される側が旅費を肩代わり
双方が納得のいく割合で
介助を受ける側は、その報酬としてボラン

グリストも作成している。

今年7月末時点での会員数は183名。ボランティア探しで登録した人は、視覚障害者や車いす利用者を中心に、病後の後遺症を抱える人、透析療法中の人、夫婦の一方が障害者、旅仲間がほしい高齢者などさまざま。登録人数としてはボランティアのほうが多く、人の役に立つことがしたい、普通のツアーでは物足りなくなってきたのが登録の動機だ。

「介助を必要とする場合、旅行の期間や目的、世話をする同行者がほかにいるかなどさまざまな要素を考慮して、双方が納得し良好な関係を築ける負担割合を提案しています。まったくの無償では身障者が介助を頼みづらく、逆に全額負担ではボランティアのほうに負担が大きい。旅を楽しいものがあるんですよ。」(五島さん)

例えば、おそどまきさんのツアーでは、ト

旅をバリアフリーにする介助ボランティア 体が不自由な人や高齢者の旅行を、旅仲間としてサポート。 介助のお礼は旅行費用の一部負担。